





● いっかくじゅう座のわし星雲 ● 望遠鏡：タカハシ  $\epsilon$ -180ED望遠鏡(口径180mm・焦点距離500mm) ● 赤道儀：タカハシ N.J.P Temma2赤道儀 ● 画質モード：14ビットRAW(NEF) ● 露出モード：マニュアル ● ISO感度：1000 ● 1枚あたりの露出時間とコンボジット枚数：300秒×8枚 ©Takayuki Yoshida



● オリオン座主要部(オリオン座の散光星雲、バラ星雲) ● レンズ：AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G ● フィルター：ケンコー ソフトンスベック(A) ● 撮影方法：三脚固定 ● 画質モード：14ビットRAW(NEF) ● 露出モード：マニュアル、f/2.2、4秒 ● 高感度ノイズ低減 / 長秒時ノイズ低減：標準 / する ● ホワイトバランス：色温度(3850 K) ● ISO感度：6400 ● ピクチャーコントロール：ニュートラル ©Toshio Ushiyama



## 優れた高感度性能とノイズ低減処理

D810Aの撮像感度は、ニコン独自の厳格な基準を満たしながら、ISO 200からISO 12800までと広範囲<sup>\*</sup>。いずれの感度でも広いダイナミックレンジを維持しています。高感度時、および長秒時には、画像処理エンジンEXPEED 4の優れたノイズ低減処理で、コントラストが低い被写体でも、有効画素数3635万画素の精細さを極力残したままノイズを抑えます。偽色も少なく、コンボジットを行わない星景、星野の固定撮影でも、クリアな画像が得られます。

<sup>\*</sup> ISO 100 相当 (Lo 1) までの減感、ISO 51200 相当 (Hi 2) までの増感も可能。

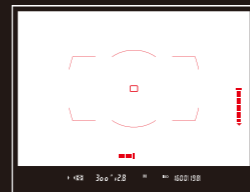
## 長時間露光に便利な、最長900秒までの露光時間を設定できる長時間露光マニュアルモード(M<sup>\*</sup>)

連続撮影の「100コマ制限」が解除されるシャッタースピード4秒以上の長秒時で、4秒、5秒、8秒、10秒、15秒、20秒、30秒、60秒、120秒、180秒、240秒、300秒、600秒、900秒のシャッタースピード設定と、バルブ、タイムの設定が可能。設定秒時は実制御秒時なので、長時間露光、コンボジット、比較明合成などに便利です。特に比較明合成を行う場合の、総露出時間の算出が容易です。



## 星景撮影での水平出しに有効な、赤く点灯し続けるファインダー内水準器表示<sup>\*</sup>

<sup>\*</sup> M<sup>\*</sup>モードでファインダー内水準器の表示時。



## NEW ライブビュー時、ピント合わせや構図調整に便利な30秒より長い露光時間設定時のプレビュー機能

天体撮影で使用頻度の高い30秒より長い露光時間設定時<sup>\*</sup>、ライブビューではシャッタースピードを30秒に設定したとき相当のプレビューを表示できます(実際の撮影画像の露出とは一致しません)。天体撮影時のピント・構図の確認が容易に行えます。

<sup>\*</sup> マニュアルモード(M)でバルブ、タイム撮影を設定した時、または、長時間露光マニュアルモード(M<sup>\*</sup>)でバルブ、タイム撮影を設定した時、および、露光時間を60秒、120秒、180秒、240秒、300秒、600秒、900秒のいずれかに設定した時。

## 厳密なピント確認が容易なライブビュー時最大約23倍の拡大表示

## 美しい光跡写真の素材撮影を可能にするコマ数無制限の連続撮影

レリーズモードがCH、CLのとき、シャッタースピードを4秒以上の長秒時に設定すると、メモリーカードの容量やバッテリー残量の許す限り長時間にわたって、どの画質モードでも連続撮影を継続できます。インターバルタイマー撮影と異なり、次のコマの撮影がすぐ行われるため、比較明合成を行った際、つなぎ目が目立たない滑らかな光跡を表現できます。

## 機構ブレを極力低減する電子先幕シャッター

レリーズモードをMUP(ミラーアップ撮影)に設定しているときには、メカニカル先幕を電子先幕に切り換え、先幕の動きを撮像素子で代用する撮影が可能です(カスタムメニューの設定が必要)。メカニカルシャッターと異なり先幕の走行による機構ブレが発生せず、また、ミラーアップ撮影でミラーの振動もないため、ブレを極力抑えたい天体撮影、特に月面撮影等に極めて有効です。